

## 糖尿病教室における 薬認識度調査

医療法人社団 大仁会 大石病院  
小文紀代子 大石菜摘子

### 2009年度 調査方法

◎2009年度の調査では、教室の始めに下記の用紙に記入して頂いた。

**おくすりの姿・形！？  
すぐに思い浮かびますか？**

・薬を使っていない  
・薬を使っている

お名前( )

	のみ薬	薬の名前	薬の色	包装の色
血糖の薬	インスリン			
血圧の薬				
血中脂質の薬 コレステロール				

### 目的

- ◎患者さんに、薬名及び薬効を正しく認識した上で服薬して頂くこと
- ◎糖尿病教室を通して、薬剤師が伝えたいことが、どの位、患者さんに伝わっているのかを知ること
- ◎今後の糖尿病教室を患者参加型のより良い教室にすること

### 2009年度の調査結果

薬品名

記載なし, 13  
記載あり, 3  
不正解, 2  
正解, 1

薬・シートの色

記載なし, 4  
記載あり, 12  
不正解, 11  
正解, 1

◎インスリンの認知度は飲み薬よりも低い  
◎色を答える患者さんが名前を答える患者さんの4倍！  
⇒患者さんは薬を色で覚えようとされているらしい・・・

### 調査対象

	2009年度	2010年度
男性	6	6 <small>インスリンのみ:1 09年度から継続:4</small>
女性	10 <small>非DM患者:4</small>	8 <small>インスリンのみ:2 非DM患者:1 09年度から継続:2</small>
計	16	14
平均年齢 <small>(歳, 平均値±標準偏差)</small>	66.1±16.9	67.6±18.3
平均HbA1c(%) <small>(非DM患者を除外)</small>	6.6±1.2	6.9±2.2
併用薬使用人数(人)		
降圧薬	4	6 <small>*(1)</small>
高脂血症薬	<small>*(1)</small>	1
降圧薬+高脂血症薬	6 <small>*(1)</small>	6

\*( )内:非DM患者

### その色は、薬の色？シートの色？

◎例えば、「ワーファリンは赤色」と言っても・・・



1mgのシートの色？



5mgの薬の色？

## 2009年度調査の問題点

- ◎薬を色で覚えようとするのは、他院を受診する場合や外出先や旅行先及び災害時等に薬が必要になった場合に、適切な薬剤情報となり得ない
- ◎似た色の薬は複数あり、外観のデザインは変更になる場合がある
- ◎色の表現には個人差がある  
例えば、「みどり」と言った場合、「緑」を示すのか、「青」を示すのかが判別しにくい
- ◎そこで、薬自体を認識して服薬する必要性を感じて頂くために、2010年度では、薬をシートから取り出して、選んで頂くことにした。

## 考察1 主な誤りの例

- ◎色、形が似ていて、選べない！  
- グルファスト10mgとグルコバイ100mg、セイブル50mg  
- アマリール3mgとミコンビAP、ノルバスクOD2.5mg (糖尿病薬と他疾患薬を混同)  
- アクトス30mgと15mg
- ◎飲んでいるけれど、選び忘れている！  
- アマリール1mg、3mg、バイスンOD0.2mg、  
アクトス30mg、ジャヌビア50mg、メルピン250mg
- ◎名前と実物が一致していない！  
- グルコバイ100mg、バイスンOD0.3mg、  
グリミクロン40mg、ファスティック90mg

## 2010年度の調査方法

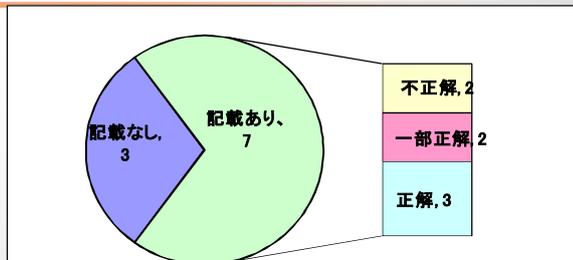
- ◎シートから取り出した経口糖尿病薬(17種類)を見て頂き、服用中の薬を選んで、下記の用紙に記入して頂いた。



## 考察2 色・形が似ている例①

	グルファスト 10mg	セイブル 50mg	グルコバイ 100mg
シートを含めた外観			
薬自体の外観			
薬の大きさ	長径(mm): 10.0 短径(mm): 5.0 厚さ(mm): 3.0 重量(mg): 150	長径(mm): 10.0 短径(mm): 4.5 厚さ(mm): 2.9 重量(mg): 130	長径(mm): 13.0 短径(mm): 7.0 厚さ(mm): 2.4 重量(mg): 150
識別コード	K・GF10	Sc397/75	K・GF10
薬効	グリド薬 (速効型インスリン分泌促進薬)	α-GI (食後過血糖改善薬)	グリド薬 (速効型インスリン分泌促進薬)

## 2010年度の調査結果



※調査対象14人中、非DM患者:1人、インスリンのみ:3人を除く10人の回答より

- ◎インスリンのみの患者が、誤って経口糖尿病薬を選んでいなかった。
- ◎薬の選び間違いは、特定の経口糖尿病薬に集中するのではなく、SU剤、α-GI薬、TZD、BG、DPP-4阻害薬と、あらゆる薬に及んでおり、糖尿病以外の治療薬(降圧薬)との混同もみられた。

## 考察2 色・形が似ている例②

	アクトス30mg	アクトス15mg
シートを含めた外観		
薬自体の外観		
薬の大きさ	直径(mm): 7.0 厚さ(mm): 2.5	直径(mm): 7.0 厚さ(mm): 2.4
識別コード	391	390
薬効	インスリン抵抗改善薬	インスリン抵抗改善薬

### 考察2 色・形が似ている例③

	アマリール3mg	ミコンピAP	ノルバスクOD2.5mg
シートを含めた外観			
薬自体の外観			
薬の大きさ	直径(mm):8.0 厚さ(mm):2.6	直径(mm):8.5 厚さ(mm):3.4	直径(mm):6.0 厚さ(mm):2.7
識別コード	NMN	H4	PT N03
薬効	SU薬 インスリン分泌促進薬	降圧薬 ARB・利尿薬配合剤	降圧薬 Ca拮抗薬

### ◇被災地では待ち時間10分の1に お薬手帳 活用して 処方記録1冊に

青森・三師会がPR

2011年6月7日 提供:毎日新聞社

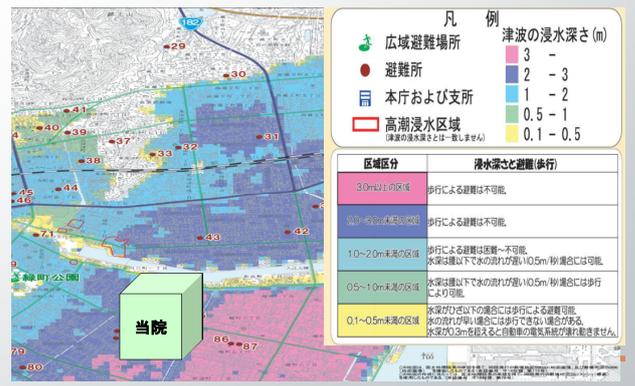
- ◎薬局などで無料で配られる「お薬手帳」が、東日本大震災の被災地で診療の待ち時間の短縮などに効果を上げている。
- ◎県薬剤師会と県医師会、県歯科医師会の三師会は10年6月、県内で統一の手帳を共同作成した。
- ◎例えば、大船渡市の岩手県立大船渡病院では、普段の5倍の人が詰めかける混雑ぶりだったが、手帳を持っている人はスムーズに診察が終わり、薬をもらって帰っていく。一方、手帳のない人は6～10倍もの待ち時間がかかっていた。
- ◎市販の薬局で購入した薬や健康食品もできるだけ自分で記入してほしいと呼びかけている。

### 考察3 継続参加について

	2009年度参加	2010年度参加	2009年、2010年 2年間継続参加
参加者数(人)	10 糖尿病薬なし:1 インスリンのみ:9	8 インスリンのみ:3	6 インスリンのみ:0
一部正解者数(人,%)	4/9(44)	1/5(20)	1/6(17)
正解者数(人,%)	1/9(11)	1/5(20)	2/6(33)
HbA1c (%,平均値±標準偏差)	7.0±1.8	7.3±1.9	7.2±1.7

- ・継続参加者と単発参加者のHbA1cに、有意差はみられなかった。
- ・正解率は、継続参加者が単発参加者より高かった。

### 福山市津波・高潮ハザードマップ 東南海地震と南海地震が同時に発生した場合



### 結論

- ◎2009年度には見られなかったが、2010年度には「薬のことを聞かれる」と、教室にお薬説明書を持参する患者さんが見られるようになった。
- ◎糖尿病教室に参加する事が、薬の認識度を高める動機づけになっている。
- ◎今後とも、薬名(薬効)及び、薬や包装の色をよく認識した上で服薬して頂ける様に、教室の運営や表現方法を工夫して、患者さんの療養生活を支援して行きたい。

### 命をつなぐ“薬の情報”

- ◎“薬の情報”とは？

- 薬の名前
- 用法用量(どう飲む、どう使う)

- ◎“薬の情報”はどこにある？

- お薬手帳、処方シール、薬剤情報提供書(薬情)
- 薬メモ・患者さん自身に“薬の情報”を名刺大のカードにメモしてまとめておく・防水加工しておく
- 薬や薬関係文書の写真・携帯電話やデジタルカメラで、薬の実写やお薬手帳等の内容を記録しておく
- 薬リストのQRコード(二次元バーコード)・シールを作成して携帯電話、時計などの身につけるものに貼付しておく

東京大学大学院薬学系研究科医薬情報学講座「みんくす」より引用

## いつも身近に”薬の情報”を！

### ◎非常時に持ち出すもの、いつも持ち歩いているものと一緒に

- 避難袋、お財布、お守り、カードケース等
- 最新の情報であることが必要
- 防水加工してあると安心



### ◎情報の共有と分散管理

- 家族、親戚、知り合いにも保管してもらう
- ふだんからのネットワーク作りが大切



### ◎無理のない持続できる方法で

### ◎複数の方法を組み合わせる



東京大学大学院薬学系研究科医薬情報学講座「みんくす」より引用

## 御清聴どうもありがとうございました。



大石病院 糖尿病友の会オレンジです。  
今後ともどうぞよろしくお願いします！



## 楽しくてためになる語呂合わせ

### 低血糖は「はひふへほ」

#### ◎は：腹が減って

#### ◎ひ：冷や汗が出て

#### ◎ふ：震えが出て

#### ◎へ：変にドキドキして

#### ◎ほ：放っておくと意識がなくなる



### ◎軽い症状のうちに早めに

### ◎おでかけには「ブドウ糖」も一緒に



坂根直樹「あなたの知らない薬の世界」より引用

## “薬の情報”も楽しい語呂合わせで！

### ◎薬の情報を覚える

### ◎楽しい語呂合わせ等

- ふだんから薬の名前(可能なら用法用量も)をできるだけ覚える

- 頭の体操にもなる！

- 患者さんが覚えやすい方法を一緒に見つける

- 例)アマリール1mg

- ・甘(あま)りール、
- ・赤い「アマリス」、
- ・甘薬食べたらアマリール など



東京大学大学院薬学系研究科医薬情報学講座「みんくす」より引用